

原子力発電の安全性向上にかかる進捗状況（2024年度上期）

2024年11月28日
関西電力株式会社

当社は、2014年に作成した「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実」※（以下、ロードマップ）に沿って、安全性向上の取組みを進めています。今回、2024年度上期の進捗状況を取りまとめました。

主な内容は、以下のとおりです。

（1）安全性向上に関する活動の実施

能登半島地震を踏まえて地盤隆起時の可搬型設備による海水取水訓練を行ったほか、能登半島地震の知見を反映して防災訓練計画を見直すなど、災害時対応能力の維持・向上等を進めています。

（2）コミュニケーションの充実等

あらゆる機会を通じて社外の皆さまとの対話活動に取り組んでいます。その一環として、2024年6月から、より多くの方に原子力発電に関する理解を深めていただくため、関西地域を発着する見学ツアーを実施しています。

当社の原子力安全にかかる「ありたい姿」の実現に向けて、各取組みの定着およびさらなる充実に努めてまいります。

※ 2004年8月9日の美浜発電所3号機事故の反省および東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえて、原子力発電の安全性向上に向けた取組みとして公表しているもの

以上

（添付資料）

・2024年度上期のロードマップの進捗状況

本件の詳細な内容はこちら ⇒ [リンク](#)

2024年度上期のロードマップの進捗状況



➤ 2024年度上期は、5つの柱に沿った取組みを計画どおり進めました。

5つの柱	2024年度上期の主な取組状況	掲載頁
 <p>安全最優先の理念の浸透および定着</p>	✓ 安全の誓いの日に合わせ、全従業員が二度と事故を起こさないとの決意を新たにしました。また、原子力発電の特性とリスクに関する従業員の認識を深めるとともに、安全を最優先する意識、行動の定着を促進しました。	
 <p>安全性向上に関する基盤整備</p>	✓ 安全・品質向上と効率化を両立するDX推進の共通基盤となる現場ネットワークの構築に着手したほか、安全を支える人財の継続的育成などに取り組みました。	
 <p>安全性向上に関する活動の実施</p>	✓ 能登半島地震を踏まえて地盤隆起時の可搬型設備による海水取水訓練を行ったほか、能登半島地震の知見を反映して防災訓練計画を見直すなど、災害時対応能力の維持・向上等を進めました。	2
 <p>リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善</p>	✓ 原子力安全に係るパフォーマンスについて、外部レビューによる客観的評価を行ったほか、国内外のリスク情報を収集し必要に応じて対策を講じるなどリスクマネジメントシステムの継続的改善を図りました。	
 <p>コミュニケーションの充実等</p>	✓ 立地地域や消費地の皆さまによる見学会の開催のほか、皆さまとの対話活動など、さまざまな機会を通じて双方向コミュニケーションを進めました。	3



訓練の実施状況（大飯発電所）



訓練の実施状況（高浜発電所）

地盤隆起を仮定した訓練を新たに行い、実効性を確認

実績

- 能登半島地震では約4mの地盤隆起が発生しましたが、当社発電所の近傍にある活断層が動いた場合でも、発電所の敷地が大きく隆起することはなく、発電所の安全性に影響を与えないことを確認しています。
- 一方、想定外を作らないとの観点から、**地震発生時に既存の海水取水箇所が利用できず、かつ4mの地盤隆起が発生した場合を仮定し**、代替の海水取水箇所を机上検討したうえ、大飯発電所、高浜発電所、美浜発電所において**実動訓練を実施**しました。

効果

- 代替の海水取水箇所に可搬型設備を配置して訓練した結果、既存の取水箇所と大差なく取水することが可能であると確認できました。
- 机上検討によって代替の海水取水箇所の成立性は確認していましたが、実際に設備を配置・接続して検証することにより、想定以上の事象が発生した場合の対策の実効性を確認することができました。

今後に向けて

能登半島地震の知見も踏まえた防災訓練を実施するなど、事故時対応能力のさらなる向上に努めてまいります。

関西地域発着の公募型原子力発電所見学ツアーを開始



PR館でのご説明



バス車内でのVR映像によるご説明

[詳しい情報はこちら](#)

[関西地域発着の公募型原子力発電所見学ツアーの開始](#)
(応募方法等を掲載しています)



実績

- 当社は2016年から、福井県内を発着する公募型原子力発電所見学ツアーを実施しています。2024年6月からは、より多くの方に原子力発電に関する理解を深めていただくため、**関西地域を発着する見学ツアーを開始**しました。
- ツアーでは、バスで発電所構内を巡り、原子炉格納容器などの外観や、空冷式非常用発電機などの安全対策を見ていただくとともに、VRゴーグルで普段は公開していない建屋内の構造や設備などをご覧いただいています。
- この関西地域を発着する見学ツアーは、上期末までに29回実施し、546名の方に参加いただきました。

効果

- 参加いただいた方々からは、「原発を理解するうえで大変有意義」「これまで不安だったことを聞いて、回答をもらえてよかった」といったお声をいただいております。原子力発電所における安全性向上の取り組み等にご理解を深めていただくことができました。

今後に向けて

コミュニケーションの内容が分かりやすいものとなるよう継続的に改善するとともに、引き続き立地地域をはじめ社会の皆さまとのコミュニケーションを推進してまいります。

ありたい姿

2022～2024年度
ロードマップの取組項目

5つの柱

1 安全最優先の
理念の浸透
および定着

経営層の安全最優先の理念に対する明確なコミットメントのもと、全社を挙げた理念等の浸透活動が展開され、原子力事業本部を含む本店と発電所、また当社と協力会社社員との間のコミュニケーションなどを通じて、理念等が現場第一線にまで浸透・定着し、日々の活動において実践されている。

- ◆ 安全最優先の理念の共有
- ◆ 原子力安全に対する経営のガバナンス強化
- ◆ 安全文化の発展

2 安全性向上に
関する基盤整備

安全の基礎となる安全を支える人財を継続的に育成するとともに、環境の変化に応じて、柔軟に組織・体制の整備や設備投資を行うなど、経営資源を適切に投入することで、安全最優先の事業運営基盤の維持・向上を図っている。

- ◆ 資源の充実
 - 人財育成
 - 体制整備

3 安全性向上に
関する活動の
実施

安全性向上のために国の定める規制基準の枠組みに確実に対応することに留まらず、世界最高水準の安全性実現に向け、事故の発生、進展、拡大を防止する対策の充実、および万が一に備える事故時対応能力の向上に向けた諸施策を自主的・継続的に実施している。

- ◆ 稼動プラントの自主的安全性向上対策の推進
- ◆ 事故時対応能力向上のための防災訓練の実施

4 リスクマネジメントをはじめとする
マネジメントシ
ステムの確立・改善

安全性向上のために必要となる運用管理や有効性の評価システムに加え、オーバーサイトの仕組みや国内外の情報を活用することで、マネジメントシステムを継続的に改善している。

- ◆ リスクマネジメントシステムの継続的な改善
- ◆ リスク管理・評価等のツールの整備・改善
- ◆ その他マネジメントシステムの確立・改善
- ◆ 客観的評価・外部知見等の活用

5 コミュニケーション
の充実等

社会のみなさまとのコミュニケーション活動を通じて、原子力に係るリスク認識等を共有し、頂いたご意見を事業運営に反映することで、安全性向上を図っている。地域に根ざした事業運営を行うことで、立地地域をはじめとした社会のみなさまとの信頼関係の維持・向上を行っている。

- ◆ リスクコミュニケーションの推進

「原子力発電の安全性向上のためには、外部の知見等も活用し、確実に改善を図る。」に基づき、継続的・自主的な安全性向上の知見等も活用し、確実に改善を図る。